

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こども発達支援事業所 エールマリヤ		公表日		2025年 3月 14日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	・療育内容に合わせて部屋の振り分けを行い、併設のこども園の園庭や遊具、ホールなども利用している。	・基本的な定員に対するスペースの確保できている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	・一人ひとりにしっかり関わることができていると思う。	・一日の利用者の人数の調整が必要。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	・視覚的に刺激を抑えにシンプルに整え、療育の内容によって机の配置等工夫している。	・バリアフリーの面は事業所が2階にある為、利用する人が限られてしまう。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	・毎日清掃を行い、清潔と整頓を心がけている。	・今後も継続していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	・事業所内で空いていれば使用が可、空いていない場合でもこども園会議室など使用することができる。	・継続していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0	・法人アンケートで一人ひとり振り返りを行う機会が設けられ、その後職員全員で話し合いを持っている。	・継続していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	・昨年度の評価表を参考に調整し実際に改善している部分もある。	・保護者会開催やペアトレなど保護者支援に力をいれていきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	・職員間の意見交換の時間を日々持つように配慮し、改善に積極的に取り組んでいる。	・定期的な職員の意見交換の時間が取りにくい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3	・第三者評価が行えるようにしていく。	・第三者評価はまだ行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	・業務時間内で効率的に研修が受けることができるように研修プログラムを検討中である。	・研修の機会はあるが体系的に学んでいける体制やスーパーバイズしてもらえる機会があるとよい。 ・機会はあるがもっと必要と思われる。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	3	・作成中	・今年度、作成・公表の予定	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	・全体的な発達に対して漏れなく評価できるアセスメントシートを使い、保護者のニーズや生育歴等配慮して作成している。	・現在使用中のソフトのアセスメントシートに移行していく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	・必ず関わっている職員の話し合いのもと作成している。	・継続していく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	・定期的な話し合いで共有されている。	・継続していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	・5領域と家族や保護者のニーズに対してのアセスメントシートを使用中。	・標準化されたツールを使ったアセスメントを出来るとうい。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	・ガイドラインに照らし合わせ作成している。	・継続していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	・具体的な活動は支援者個々に任せられている部分も多いが、ねらいや配慮点は共有している。	・具体的な活動の部分まで、プログラム化されていると誰が対応しても同じ療育が提供できると思われる。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	・子どもの状態に配慮し、興味を持って楽しく活動に参加できるよう工夫している。	・研修など受けて活動プログラムに巾を持たせられるようにしていきたい。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	・作業療法士の専門を活かした活動や小集団でのSSTなどねらいが達成しやすい組み合わせの支援を行っている。	・継続していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	・朝、始まる前の確認を必ず行っている。	・療育の活動の細かい所までの確認もできるだけ行っていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	・振り返りはほとんど毎日行っている。抜け落ちる子がいないよう気を付けていく。	・継続していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	・記録は漏れなく行っている。書き方等誰が読んでもわかるように統一している。	・継続していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	・色々な意見や考え方を反映させるためにもなるべく多くのスタッフで話し合いを行っていきたく思っている。	・担当者と児発管との話し合いになりがちだが、全員で行う必要がある。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	2	・計画相談支援の利用者がほとんどいないため、こども園からの利用者は保護者と担任、工員職員で会議（面談）を行っている。	・セルフプランでの利用となっている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	・外部利用者は保育園、幼稚園と話す機会は持つように心がけている。事業所間連携も進めているところである。	・これから体制を整えていく必要がある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	・併設こども園とは連携ミーティングを通してインクルーシブ保育について考え意見交換を行っている。	・外部機関とは、インクルージョンの推進の観点まで話し合う時間がなかなか取れない現状がある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2	・保護者の希望を聞き、依頼があれば「引継ぎの為の連絡票」を作成し内容の確認とサインのうえ情報提供をしている。	・継続していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3	・当事業所に専門職（言語聴覚士）が在籍していないため、市の児童発達センターに支援のポイント等助言を仰ぎ、療育に活かしています。	・少しずつだが、連携する体制が取れていると思う。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	・こども園と併設の為、交流の機会は多い。	・積極的に交流の機会を多く持っていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	・送迎時、連絡帳、個別連絡のできるソフトの導入により保護者と話しやすと感じている。	・送迎時に会わない保護者、連絡帳に記入の少ない保護者と会うことができる保護者での差がある。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	・研修を積極的に取り入れて、ペアトレや家族の参加できる研修の情報提供など家族支援の機会を増やしていきたい。	・ペアトレなど行うことができていない。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	・契約の際には丁寧な説明を心がけている。	・継続していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	・利用開始時は、前もってプレを行い子どもと遊びながら保護者の意向を聞いたり、以後は定期的な面談を通して確認を行っている。	・継続していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	・なるべく保護者がわかりやすい言葉を選び、丁寧な説明を行うようにしている。	・継続していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	・定期的な面談を通して確認を行っている。また、こども園の送迎時に話すことができるよう玄関に出るようにしている。	・顔を合わすことができる保護者と通常会うことができない保護者との間で差が出来てしまっている。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	6	・どのような形で開催できるか考えていく必要がある。	・できていない。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	・声を拾うと共になるべく早く対応できるように心がけている。	・継続していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	1	・「エールだより」を毎月発行し、親子同伴でないため、療育の様子・内容を写真で伝えている。	・「エールだより」の発行継続とおたよりの中で避難訓練や緊急時の対応について周知していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	・今後も配慮していく。	・している。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	・その時々で状態で色々な思いがあることを配慮しながら、連絡帳や個別の面談を持つことで保護者との気持ちの共有をはかっている。	・継続していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6	・どのような行事を開催していくことができるのか、地域から求められているのか、今後取り組む必要があると感じている。	・行われていない。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	・毎月発行のエールだよりで周知していく。	・マニュアルは策定しているが、保護者への周知ができていない。
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	・策定している。子ども園と併設しているため、合同で避難訓練に参加している。	・利用曜日が違う利用者が全員どこかで参加できるような計画が必要である。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	0	・契約時には確認し、対応が誰でもわかるように各部屋にリング綴じにして置いている。	・継続していく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	・現在利用者にアレルギー児はいないが契約時には確認し、対応が誰でもわかるように各部屋にリング綴じにして置くこととする。	・継続していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	・子ども園と併設の為安全には配慮されている。	・継続していく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	・計画の内容を伝える機会を入所時だけではなく、定期的な面談の時やエールだよりやキッズリーのソフトで周知していく。	・周知の徹底がなされていない。色々な機会に伝えていく必要がある。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	・事業所内職員全員で共有し、漏れがないようにしていく。	・行っている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	・事業所内研修のほか、外部の研修やネットでの研修など積極的に受けていく。	・行っている。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	・契約時には保護者へ丁寧に説明を行っている。	・児童発達支援計画への記載の見直しの必要がある。